

令和 3 年 6 月 15 日現在

機関番号：33906

研究種目：挑戦的研究(萌芽)

研究期間：2018～2020

課題番号：18K18505

研究課題名(和文)「四方四季」と異界研究 室町文芸を中心に

研究課題名(英文)Four Seasons and Alien world- Studies-on Muromachi Literature

研究代表者

伊藤 信博 (ITO, Nobuhiro)

椋山女学園大学・国際コミュニケーション学部・教授

研究者番号：90345843

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,800,000円

研究成果の概要(和文)：「四方四季」と異界研究 室町文芸を中心にをテーマとして、室町文芸の成立を東アジアの文化圏の中の日本の文化と捉える研究を実行した。その目的は、日本文化の発祥が孤立して行われるものではなく、近隣の国の文化と絶えず、相互に影響を与えていると考えたからである。そこで、植物・食物の文化に注目し、その表象が異界表現にも表れていることを日中比較を通して実行し、日本文化の特徴を考察した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

室町文芸を考察することで、『酔いの文化史 儀礼から病まで』、『六条葵上物語』からみる室町後期の擬人化された物語、「米と酒や食物 韓国と日本の比較を通して」などの執筆や室町時代の飢饉とその対策(フランス)「植物の擬人化・中国と日本の比較を通して」(國學院大学)、「日本文学と古本研究」(ブラジル)、「古記録に描かれた絵画から室町時代を読み解く」(愛知県額田郡幸田町)など講演も多く行った。

研究成果の概要(英文)："four seasons" and the difference world study-Muromachi literature, the study which catches formation of Muromachi literature with Japanese culture in the cultural sphere in East Asia was carried out with the theme of center NI. The purpose is because I thought origination of Japanese culture was isolated, and you couldn't do, and all the time, I was having an influence mutually with national culture in a neighborhood. So I paid attention in Bunka of plant and food, carried out that the symbol also shows in the difference world expression through daytime comparison and considered the feature of the Japanese culture.

研究分野：中世文学

キーワード：四方四季 食物・食物 擬人化 環境文学

1. 研究開始当初の背景

日本及び海外に所在される絵巻・絵本や各種地獄絵を対象に、その文化的意義や室町後期の社会的機能を解明し、江戸期における創造的継承を明らかとしようと考えた。また、文学資料と図像資料などの位相を再統合して一体的に捉えようとする、統合・複合的な文献解釈学的方法的実践により、研究の少ない植物・食物と「異界」表現、「四方四季」表象、地獄観などを多数描く絵物語と室町文芸との関係性を考察する点を重要と考えた。つまり、思想史、美術史など個別の研究領域を超え、文学史の流れを見据えた上で、これらを統合した研究及び個々のモチーフ分析を詳細に行おうとしたのである。

この当時、国文学研究は、一つの物語を諸本も加えて、流布系本文の分析、系統立て、成立の経緯を問う研究が多く、総合的で歴史的な見地から、キーワードを元に、全体を有機的に鑑みる方法論的研究は少なかった。そして、各領域が見逃していた点を指摘できる一方、各々の領域に新たな研究の材料を提供できるとも提案した。その結果が美術史的相互影響や「草木国土悉皆成仏」思想との思想的、宗教的儀礼性、絵物語との相関関係も解明され、さらに、個々のモチーフを詳細に分類し、考察することで、モチーフや構図を利用して、新たな絵物語が誕生した歴史的経緯も指摘できると考えたのである。加えて、絵巻群を細分化し、構図、道具類、「四方四季」、異界、異類などの点から、個別に比較しながら研究することで、図像本来が持つ歴史的過程や背景を超えた絵物語の創造性や新しい知見も見出されると期待したのである。

2. 研究の目的

本研究は、文学研究が蓄積してきた成果を活用し、歴史学、美術史、芸能史を含めた分野横断的な研究を行い、主題のモチーフを詳細に分類した上で分析し、有機的研究のない室町文芸の位相を再確認することを目的とした。

具体的には、御伽草子や内外に所蔵される絵写本など(絵巻、能・狂言、謡曲)に描かれる地獄や異界に焦点を当て、その言説や「四方四季」表現の分析から、室町の地獄や異界への嗜好を明らかにし、東アジアの「知」も含めた室町文芸共通の「知」表象と、その発展形態としての江戸文芸への影響を明らかとすることであった。

つまり、荒唐無稽と等閑視される当該文芸を、図像空間によって統合された視覚文芸として捉え、室町文芸の森羅万象の表象とその発展が江戸文学の流れを生んだことを論証したいと考えた。

3. 研究の方法

研究対象を「地獄や転生の嗜好分類研究」と「四方四季表現研究」の二つに分けて研究を行った。

「地獄や転生の嗜好分類研究」

『往生要集』に記される厭離穢土から天道、阿修羅道、人道、飢餓道、畜生道、地獄道の六道から世界はなるが、この地獄は、八大地獄に分類され、各地獄には、それぞれが小地獄を持つため、合計百三十六の地獄がある。そして、人間は地獄で苦しみ、救いを求めるのが通常の文学作品であるが、当該研究文芸では、異類や植物・食物も地獄で苦しみ、救いを仏に求めるなど、地獄が異類をも受け入れる形となっている。

そこで、『六条葵上物語』や狂言『黄精』、『常盤の姥』などの室町・江戸初期絵写本や文芸を対象とし、以下のリスト(各植物・食物がどのような地獄に落ち、苦しむかの一覧表 語られる地獄の一覧表 どのような転生があったかの一覧表)を制作することで、どのような地獄

や転生に興味を持っていたかを明らかとし、当該時代の人々の「共通知」を導き出す研究を行った。

「四方四季表現研究」

御伽草子の「神代物語」などでは、春（牡丹）、夏（藤）、秋（紅葉）、冬（雪山）などで、「四方四季」表現を使い、異界らしさを表現するとされる。この「四方四季」表現は、これまで、曖昧に「異界表現」とされてきたが、室町後期成立の「酒飯論絵巻」詞書では、各段に四季が表現され、食物にも「四方四季」表現が存在し、「異界表現」とは言い難い。そこで、異界とは何かを「四方四季」をキーワードに以下の研究を計画した

異本「是害房絵巻」には植物の「四方四季」以外に、大根・熟柿・食物としての蓮・瓢箪などでも四季が表現される。そこで、『山家集』や『毛吹草』により、どのような食物が季節を表現するのか明らかとする。

『十二類絵巻』を対象として、主人公の十二支が時刻、方角や季節も表すが、その十二支と対立する動物はどのような表象として描かれているのかを明らかとする。

異質な世界がどう位置付けられているかを人物が持つ道具（房付槍、三叉、楽器など）が異国産か国内産かなどの相違を当該文芸調査により明確化する。

連歌、本草和歌などにみられる植物・食物の位置付け。

以上のような研究により、室町後期文芸にどのような地獄表現、異界表現、転生表現があるかを検証し、擬人化された異類がどのように位置付けられているかを明らかとすることで、今まで曖昧に異界らしさを表現すると位置付けられていた「四方四季」を植物・食物・異類などでも分類し、当該文芸における地獄・異界とは何かを明白化する研究計画を立てた。

4．研究成果

以上のような研究計画により、室町後期文芸の地獄表現、異界表現、転生表現が複雑化して混在する。しかし、人間が少し美貌を誇ったからという理由で、天狗に転生し、その転生した天狗が地獄で苦しむような話もあり、異類である天狗や道具の変化した化け物も、仏教に頼り、新たな転生を望むなどする表現が多い。

そこで、室町後期文芸には、異類や擬人化された動植物も一つの世界で生を享受しており、人間道と同様な生の苦しみ、死の恐れを感じている表現が多い事実から、六道の中に、異類道や植物道なども含まれる世界観があると結論付けた。さらに四方四季表現も人間の世界であるように、異類や植物、動物、擬人化の世界にも同様な表現があると創造する書き手がおり、彼らもまた一つの世界を持つとする室町後期の文芸の特徴が表れていると論じた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 伊藤信博	4. 巻 第18号
2. 論文標題 聖書に記される植物 -表象とその思想	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 言語と表現	6. 最初と最後の頁 5-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 伊藤信博	4. 巻 第四巻
2. 論文標題 米や酒そして作物 -韓国と日本の比較を通して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東アジア文化講座	6. 最初と最後の頁 297-320
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 伊藤信博	4. 巻 第三号
2. 論文標題 室町・江戸時代における農産物と飢饉対策	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 和食文化研究	6. 最初と最後の頁 38-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 伊藤信博	4. 巻 -
2. 論文標題 六条葵上物語からみる室町後期の擬人化された物語	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 和食文芸入門	6. 最初と最後の頁 57-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 5件 / うち国際学会 7件）

1. 発表者名 伊藤信博
2. 発表標題 絵写本と擬人化
3. 学会等名 0 corpo na Cultura Japonesa 日本文化における身体：日本文化に関するラウンドテーブルセッション（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤信博
2. 発表標題 Aproximando-se dos livros antigos e dos rolos de pintura 日本の古本について
3. 学会等名 Workshop de escrita cursiva Japonesa（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤信博
2. 発表標題 Productions agricoles et mesures contre les famines au Japon aux epoques de Muromachi et d' Edo（「室町・江戸の農業生産と飢饉対策」を描く絵巻）
3. 学会等名 1 er Forum de l'association Alumni JSPS France, Agro Paris Tech（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伊藤信博
2. 発表標題 伊藤若冲『果蔬涅槃図』とその周辺 笑いの奥に潜むもの
3. 学会等名 日本文化特集（チェルヌスキ美術館）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊藤信博
2. 発表標題 チェスター・ピーティアー・ライブラリー本における四季の描かれ方
3. 学会等名 チェスター・ピーティアー・ライブラリー蔵絵巻絵本の最新研究(チェスター・ピーティアー・ライブラリー)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤信博
2. 発表標題 六道輪廻と草木国土悉皆成仏思想
3. 学会等名 異端とその宗教的言説 日本と西欧の比較史学の試み(名古屋大学)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤信博
2. 発表標題 奈良絵本・古今著聞集(チェルヌスキ美術館蔵)と元禄版本の画像比較から見る問題点
3. 学会等名 近世日本の絵本、絵巻から読みとる写本・版本文化の狭間(ハイデルベルク大学、遠隔)(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊藤信博
2. 発表標題 かわいい絵巻・絵入本展示解説
3. 学会等名 かわいい絵巻・錦絵展示会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 伊藤信博	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 256
3. 書名 酔いの文化史	

1. 著者名 伊藤信博（徳田和夫編）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 262-286（339）
3. 書名 「水陸斎・水陸斎図からみた植物の擬人化の様相」『東の妖怪・西のモンスター』	

1. 著者名 ITO Nobuhiro	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Edition Picquier	5. 総ページ数 99-118(317)
3. 書名 ;Rouleau enlumine du moine Zegai "CORPS Et MESSAGE"	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------